

平成30年4月25日

# 第1回 南相馬市総合教育会議

南 相 馬 市

## 第1回 南相馬市総合教育会議 会議録

- 1 開催日 平成30年4月25日(水)
- 2 場所 市役所 本庁舎3階 第1会議室
- 3 会議時間 開会 午後 3時40分  
閉会 午後 4時50分
- 4 出席者  
市長 門馬 和夫  
教育長 大和田 博行  
教育長職務代理人 大石 力彌  
委員 高野 恵以子  
委員 渡辺 金作  
委員 濱須 弘仲
- 5 欠席者(0名)
- 6 説明のため出席した者の職氏名  
(復興企画部)  
復興企画部長 庄子 まゆみ 企画課長 門馬 哲也  
企画係長 藤原 央行 企画係副主査 鈴木 啓太  
(教育委員会事務局)  
教育委員会事務局長 木村 浩之 次長兼教育総務課長 木幡 藤夫  
課長補佐兼総務係長 佐藤 克巳 教育環境創造担当係長 志賀 和浩  
参事兼学校教育課長 松本 浩一 教育支援担当課長 戸浪 誠  
参事兼指導主事 伏見 伸一郎 幼児教育課長 猪狩 忠信
- 7 傍聴者(2名)
- 8 本日の会議に付した協議事項等  
(1) いじめ問題対策の現況報告について  
(2) 南相馬市公立学校適正化計画(中間報告)について  
(3) 今後実現したい重点施策について  
(4) その他  
  
【配布資料】 別添のとおり  
資料1 いじめ問題対策の現況報告について  
資料2 南相馬市公立学校適正化計画(中間報告)  
資料3 今後実現した重点施策

午後 3 時 4 0 分 開会

企画課長

只今よりご案内の時間となりましたので、平成 3 0 年度第 1 回南相馬市総合教育会議を開催いたします。本日、進行を務めさせていただきます、南相馬市企画課長の門馬と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、市長よりご挨拶申し上げます。

市長

平成 3 0 年度第 1 回南相馬市総合教育会議を開催するに当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

まず、教育長をはじめ、教育委員の皆様には、日頃より教育行政のみならず、市政全般にわたりましてご協力賜っておりますことに、この場をお借りいたしまして改めて御礼を申し上げます。ありがとうございます。

総合教育会議は、地方公共団体の長と教育委員会という執行機関同士が教育施策の方向性を共有し、一致して執行に当たるため設けられている、両者で協議調整の場として設置されているものであります。

ご案内のとおり、震災以降、南相馬市の教育環境は、そもそも子どもたちが少ないということ、さらには、避難が継続されているというような意味合い、様々な意味合いで、大変厳しいものがございます。私は子育て支援や子どもの教育に最優先の対応と言いますか、力を入れて行いたいと思っております。

そうした中で、今日お時間いただきまして、まず、いじめ問題の現況報告、さらには南相馬市公立学校適正化計画の中間報告についてと、もう一つ、今後実現したい重点施策についてということで、私の考えなりもご説明させていただきながら、充実した教育施策の実現に向けてまいりたいと思います。

どうか皆様方の、活発なご議論、ご提案をお願い申し上げたいと思っておりますし、力を合わせて教育環境の整備に努めてまいりたいと思っておりますので、よろしくどうかお願い申し上げます。本日はありがとうございます。

企画課長

続きまして、出席者のご紹介でございますが、次第の裏面に記載のとおりでございますので、こちらをもちまして紹介に代えさせていただきますのでご了承願います。

また、本日の会議ですが、4 時 3 0 分までとさせていただきますので、進行のほどご協力をお願いいたします。

続きまして、協議事項に入ります。南相馬市総合教育会議設置要綱第 4 条第 1 項の規定によりまして、これより市長が議長となり進行することとなりますので、よろしくお願いいたします。

市長

それでは暫時の間、進行役を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。先ほど 4 時半と申し上げましたが、中身 1 時間ということで、よろしくお願いいたします。

それでは、協議事項(1)いじめ問題対策の現況報告について、担当課より説明をお願いいたします。

(教育支援担当課長 説明)

市長

はい、ありがとうございました。それでは、説明を受けましたので、現況について意見交換を進めてまいりたいと思います。委員の皆様から何かございましたら。

大石教育長職務代理人

いじめアンケート毎月やってるって書いてあるね、児童生徒、毎月。ということは、この表にある1月の後、2月、3月もやったんでしょ、まずはね。

あと、新しい年度になって4月というのは、まだこれはやってない。

教育支援担当課長

学校の方で準備しているところでございます。

大石教育長職務代理人

グラフなんか見ると、やっぱり環境が大きく変わる4月、5月が数多いからね。だから、言ってみれば要注意の月だね。今は4月、5月。

その辺を丁寧にやっていただいて、あと、2月、3月は、手元にあるだろうデータでは、若干右下がりなんですか。まだ上がってこないんですか、データ。

教育支援担当課長

集約中でございます。まとめ次第、平成29年度分につきましては、改めて提示させていただきたいと思います。

大石教育長職務代理人

2月、3月が集約中というのは、言ってみれば、内容が内容だから、ちょっと遅すぎるのではないかというふうに思います。いかがですか。

教育支援担当課長

学校から上がってきてる、いじめの件数、それから、要注意案件については、上がってきた時点で、随時対応させていただいている状況でございます。

そのグラフの部分の資料作成等について、若干、時間がかかっているというところで、ご了解いただければと思います。

大石教育長職務代理人

はい、分かりました。物事、スピードを求められるものだから、集計は出来ていません、グラフ、プリントしてないだけです、ということでね。お願いします。

特に、4月、5月、これ危ないから。特に、連休明けなんかね、なおのこと注意して、各学校に連絡いただいて。先ほどあった要注意案件は、仲間外れと嫌なことと言われるというふうな説明でしたけども、こちらの方は、解決の方向で動いてきているんですか。まだ、継続してるんですか。

学校教育課長

各学校へ中身についての詳しい照会をかけまして、各学校へアドバイスなどし、解

決しているというふうに認識しております。

大石教育長職務代理者

はい、分かりました。

市長

その他、ございますでしょうか。

それでは、案件もありますので、いったん次に進めさせていただいて、万が一、また最後にその他もありますので、戻る場合には、その時点でということにさせていただきたいと思います。

それでは、(2)南相馬市公立学校適正化計画(中間報告)について、事務局より説明をお願いします。

(教育総務課長 説明)

市長

はい、それでは担当課からの説明を受けまして、委員の皆様方のご意見等お願いいたします。

濱須委員

適正化の時期についてのお話、最後にございました。15ページなんですけれども、前回の教育委員会の話の中で、時期を明確にしたほうがいいんじゃないかと言うお話もさせていただきました。

それで今、優先校というか、必要のある学校を優先的に進めていくようなご意見が出てきましてけれども、やはり南相馬市、鹿島区、原町区、小高区、3区に分かれて、それぞれいろんな事情があって、小規模校とかも存在してございますし、教育の全体像を考えていった場合に、やはり、いろんな形の中で、スタート時期を一斉にすべきではないか、というふうに私は思っています。

というのは、やはり教職員の皆さんの配置の問題であるとか、先行してスタートした場合に起こりうる問題であるとか、そういうことをスタートと一緒にすることによって、色んな情報が共有できたり、問題点とかなんかが出てくるのかなということで、やはり、その辺、丁寧に議論しつつも、一斉に教育効果を上げることであるとか、全体の規模の問題を平準化するという、言い方が適切でないかも分かりませんが、小規模校を解消するような形の中で考えていきますと、どうしても全体で、学区の問題とか何かを考えていかないと、なかなか難しい問題が出てくるであろうというふうに想像できるので、全体で考えていかれた方がいいのではないかと考えております。

教育総務課長

ありがとうございます。今ほど、ご意見として賜りまして、それを踏まえまして、先ほど、私、例えばで申したところでございますが、手法として、優先校を定めて進むということもあろうし、先日の教育委員会協議会でもお話申し上げましたが、今、委員からおっしゃったようなことも、当然必要だと認識しておりますので、それは総合的に勘案しまして、今後進めてまいりたいと考えております。

市長

今、スタートを同時にすべきというご意見あったわけですけども、計画の同時性と実施の同時性があるとと思うんですけども、今のところはどうなるんですかね。

教育総務課長

スタートを一緒にするというか、地域の懇談とか、そういった学校関係者の懇談会につきましては、当然、一斉にスタートしたい、すべきだと考えてございますが、ただ、適正化のゴールといいますか、これは、それぞれ地区ごととか色々ありますので、それは別になろうかと、このような想定をしております。

市長

この15ページの「地区再編計画」の策定する時期は、市内一円にしたいけれども、それぞれの地区の実施は、多少ずれますよという考えということですね。

濱須さん、それでよろしいんですか。どうですか。

濱須委員

今、説明があったんで、そういう方向なのかなと。私、個人的には、先ほど申しましたように一斉にスタートするのが望ましいというふう、当初からそういうふうには思っていたんで、そういう意見を言わせていただきました。

市長

それについて、皆さんのご意見、何か。他の皆さん。

大石教育長職務代理者

望ましい適正化基準に基づき、とこうあるのね。これに基づいたら、ざっくりばらんに、小高の場合は、この基準に基づいて動くとしたら、今のところ、動きはなかなか取れないのではないのかな。

この7ページにも、小高区復興への促進と、別枠でうたってあるし、15ページでも上から5行目、6行目になりますか、小高区内の学校の在り方ということで、特に。「小学校と中学校における系統的・連続性に配慮した小中一貫校などの新たな学校教育のあり方を」とうたってある。

だから、全部、同じ基準で、同じ時期にスタートしようとしても、現実問題、小高のことを考えれば、同じ基準が適用できかねるのではないかと思う。

少なくとも、4つの小学校が、それぞれの基準に合うかということ、まず合わないね。合うの待ってるって言ったら、まず難しいだろうな。

1学級20人の人数ということは、まずまず期待できないし、4つの学校合わせて20人というのはぎりぎりどうなのかなと思わないわけではないけど、同じ物差しではいけないのではないかと思う。いかがですか。

濱須委員

時期についてのお話の中で、スタート時期が、例えば、統合しますよね、その時期が各地区、例えば、太田小学校でも同じような問題、少人数学級であるとか、石神二小でもそういう問題があるわけですよ。

そこをどういうふうにするのか分からない、順番がどうなるのか分からないですが、そういう学校が、この地区にたくさんあって、小高は、小高で今、小高地区全体が、4つの小学校が一つになったような形で運営してますけど、これも変則です

よね。

ですから、そういう問題も当然早く解消してやらないと、子どもたちにとっても、あまり、全体でずっと一緒に6年間勉強していても、卒業証書は金房小学校の卒業証書になったりしている現状は、いち早く解消すべきだとは思いますが。

ただ、全体の児童数の問題とか考えていくと、それには、先ほど申し上げましたように、太田も石神一も高平も同じような問題を多少抱えていて、そのの所を後にしていくというのではなくて、色んな方針を決めていったら、スタートの時期は一緒にいいんじゃないかなと、一緒にした方が、より全体の、南相馬市としての教育環境といえますか、そういうのが一緒に進んで行けるんじゃないかなというふうな、そんな感じで考えてございました。

#### 教育総務課長

先ほど言いましたが、地域と学校との懇談、それから計画につきましては、スタートしております。

ただ、先日の協議会でもお話申し上げましたが、これの適正化につきましては、国が示しているものもありますし、今回の中間報告で、各学校の現状と学級数の推移という形でお示しをしております。

これから分かりますとおり、様々な問題が浮かんでおりますが、これを解消するためには、手法としては、単純に学校を統合するのとか、あるいは学区の再編をするのとか、こういった手法が考えられます。

また、大石委員からお話しあったように、我々の適正化の基本的な考え方として、小高区復興というのを掲げてございますので、ここの問題をどうするのかということと考えますと、例えばで申しますと、県内ですでに実施している小中一貫校というのがございます。あるいは、小中一貫校的なことを導入している自治体もございます。

隣の宮城県では、津波被害の大きかった閉上小中学校が、小中一貫校として開校したと、これはフリースクール、いわゆる学区が無いと。名取市、仙台市からも入学できると、このような事例もございます。

そういったことを踏まえながらですね、今ほどのいただいた意見も踏まえて、より色んな手法を凝らして、具体的に検討してまいりたいと思います。

5月にはお示ししたいと考えてございます。

#### 市長

今、南相馬市が原発の影響で、いろんな線引きをされているという実態もありますし、市が一つでやれることは、できるだけ同時にというか、同じ条件で始めたいなという思いもありますし、一方で、今、小高の話出ましたけども、本当に同時にできるかとなると現実的な問題もあります。

教育長どうなんですかね。原則というか、やっぱり、同じ市内ですから、同時期にということかな、一斉に始められるようにするのが、大きな目標というか、それは大前提なんだろうと思いますし、あとは現実的な問題を見てというか、今日、結論出す話ではないんでしょうから。教育長どうですか、その辺。

#### 教育長

最終的には、南相馬市の小学校・中学校教育をどういうふうにしていくかということに行きつくんだろうと考えています。

先ほどお話があった小高区の学校につきましても、今後の児童・生徒数がどんなふ

うに変わっていくのかは、ある程度見通しながら、この子たちにどういう力をつけるのか、そのためにはどういう学校が望ましいのかというところを考えたつ、適正化というものを進めていく必要があるだろうとっておりますし、今、小規模校といわれている学校におきまして、その子たちが、どこで、どういうふうな学びをすることが、南相馬の学校で学んで良かったって思える子どもたちを育てるのに繋がるんだと考えながら、内容があって適正化が出てくるんだらうとっております。

ただ、今、市長から話があったように、できるならば同一で進めたいところもありますけれども、なかなか一斉にできないところもございますので、ちょっといろんなデータを基に考えていかなければいけないと、私は思っております。

大石教育長職務代理者

一ついいですか。去年の秋に、栃木県の小山市に行って、色々教えてもらってきた中に、小山市の中でもやっぱり、全部が一緒でなくて、ある特定の地区だけは、義務教育学校というスタイルで動かしている一部の地区があったんです。

同じ市内なんだけども、結局は、子どもたちの数の問題なんかがあるんでしょうけども、併設型の小中一貫校というスタイルを取っている学校も、その市の中にはあったんです。

だから、同じ市内の学校が、みな同じスタイルでやってたかということ、そうではなかった。これは理解を得ることによって、可能なんでないのかなという想いはするんです。太田、大甕の件もありますし、石神一小、二小の件もありますけども、言ってみれば、こっちの方はまだもうちょっと尻に火がつくまでは、若干時間取れるような気がするけども、小高の場合は、もう尻に火がついているんでないかと思う。

だから、期間がずれ込めばずれ込むだけ、今、通っている子たちは、ある意味、団体生活の中で揉まれるという、その時期が、後ろにすれていって、気の毒な場面もあるのではないのかなという想いはするんです。

だから、3つの区が、それぞれ今までの事情があって、同時に同じようにしてやりたいという気はあるんだけども、現実にはどうなのかなと。

小山市の例なんかは、同じ街中だけでも、違うスタイルで学校運営してるよと、そういうこともあるんです。

市長

おそらく、想いは教育長も一緒だろうと思うんですよ。要は、でも、市全体、市としての、これも、これも、こういうパターンがあるよというのを共有する、一緒にすると。その上で、地区ごととか、状況によって選択できるということも必要だということですよ。

この地区独自でやるのではなくて、それを市として、全体として色んなパターンを協議した上で、認定という言葉は悪いんですけども、その上で地区の事情によって、手法が選択できるというような、大きな意味で時期も含めてですね、大きくは、何とか一つにしたいというか、共有認識を持つということかな。そんなことも大事かなと思う。

今のようなことも踏まえて、もうちょっと、この再編計画の中で具体的に議論できるというか、織り込む時期があるんでしょうから、今のような意見を踏まえて、考えていくということで、よろしいでしょうか。

大石教育長職務代理者

はい、結構です。

市長

時期の話が出ましたが、その他、よろしいでしょうか。では、次の議題に移りたいと思います。

(3) 今後実現したい重点施策については、私から、若干説明させていただきます。

(市長 説明)

市長

皆さんから色々ご質問なりご意見を賜ればありがたいと思っておりますが、いかなものでしょうか。

大石教育長職務代理者

(3) のア「幼稚園・保育所における幼児教育プログラムの導入」とありましたね。テレビの「Eテレ」なんか見ていると、本当に小さい子たちを相手に、遊戯というかお遊びの中で、自然に学習させていく場面というのがあるんですね。

さらには、英語の時間がやんわりと入ってきてるのね。今度、小学校の3、4年、5年、6年あたりから、英語が来るとなると、やっぱり、遊びの中で、英語の音に触れさせる場面を、できるだけ取り入れていくということは、学習まで行かなくても、英語の音、単語の発音なんかも、子どもたちの耳は敏感でしょうから、我々の鼓膜と違って、微妙な音の違いに反応できるでしょうから、そういうふうなのを、小学校3、4年、5年と、今度、英語を学習するようになって、先生方も何とかそれに対応できるように、指導できるようになって、そして、子供たちも、よし、分かったという耳ができてからでないと、海外の修学旅行も短期間のやつでは、どっちかという、物見遊山会、観光旅行で終わっちゃうんじゃないかと思う。

あちらの人が何を喋っているか、自分が断片的にでも聞き取れる、ああ、そうなのかって理解できるようなところまでいかないと、今のこの海外研修というの、ちょっと時期どうなのかなという想いを持ったりするのね。

少なくとも、小学校の先生方もALT頼りでなくて、自分たちでもそこそこ英語に対応できるような段階にならないと、修学旅行で連れてったって、おそらく添乗員任せになっちゃうね、先生方自身も。

だから、もうちょっとこれは時期が早いのかなというそんな思いもしますね。小学校、幼稚園なんかで、英語に触れさせる場面がね、テレビの見っぱなしでもいいような気がするんだけど。巧みに、短い時間で、大人の人が子供たち相手に、面白おかしくやっていくんですね。ああいうのを録画しておいて、学校あたりで、空き時間で聞かせられるとか、あるいは、朝晩の通学バスで、車の中で流して見させるとか、本気になって、さあ勉強だよというのではなくて、楽しみながら見ているうちに、ああそうなのかって。

あと、ペッパー君なんか入ってきたからね。あんなのも活用して、NHKの基礎英語で、今、ロボットが登場してるのね。ロボットの発音は、聞いてると「ロバット」に聞こえるんだね。私らの耳は、「ロバット」ってなるんだな。ああ、そうなのかと、「ロボット」じゃないのかと。そんなことを思ったりしてるから、やっぱり耳から入れていく音をね。これ、必要なんじゃないのかな。

あんまり、LとRの違いなんて、そんなにこだわってはいないんだね。繰り返して

言わせる中から、もっと口を丸めてやって、Rだか何だかなんて、あんまり難しいことは言わないんだけど、面白おかしく放送してるから、ああいったのも大事なんじゃないのかなと。

とにかく、接する時間を多く取ればなんと。週1時間か2時間の英語学習の時間では、あまり学力には結びつかないのかな。そんな想いもしたりはするんですが。

市長

はい、ありがとうございます。

渡辺委員

今、大石委員からありましたように、私も断片的ですが、中学校の海外研修は、私も浪江にいるとき、中国に、浪江町の教育長さんが、最初と最後だけ付いていけると。

子どもたちを何か募集して、希望を取って。お金は20万あまり、自己負担だと。その間はずっと中国を自分たちで見学して歩いていいからと言われて、子どもたちの引率は、別な者がやるから、最初と最後だけ頼むといわれて行ったんですが、一週間ほどですけども、大変これは勉強になりましたし、子どもたちも、中国ってこんななんだっていうところを見てこられたので、なかなかいいと思いました。

中国全体じゃなくて、中国の一部に一週間の中で触れていたことは、大変良かったんですね。

ただ、研修の中で、語学をというふうな面になりますと、これから小学校の英語が教科に入ってきます。ですが、家内とも話すんですけども、やっぱりもっと小さいときからやらないと。あなた英語を話せますかっていうから、話せないなあって。

私も中学校の教師で32年間務めたんですが、今もALTの方が、各中学校、小学校等に入ってくるんですけども、英語の先生の、ALTの方とうまく会話ができる先生と、うまくいかない先生、英語の先生で有りながら、やっぱりあるんですね。

双葉郡に行ったときに、ちょっと通訳してよと言われたときに、先生方が尻込みするんですね。教育長になった方が、英語の先生で、その方をお願いして、色々な方言とかあるのか分かりませんが、そういうふうな短期間であれば、夏休みか何かで、英語の先生をもっと出されて、子どもに力を付けさせる。ALTも非常に大事ですけども、英語の先生自身をもっと力を付けていかなければならないのではないかなというふうに思った。

私も小学校にいたりすると、中学校よりは小学校の方が、まだ英語を話せない先生が多いので、もっと勉強しておけば良かったなと思うんですけど、なかなか私らの友達も、いくら校長、教頭になったといっても、やっぱりお話ができないという悲しさというか。

そうするとALTの人がぼつんと置かれてかわいそうで、英語の先生が帰ってくるのを待つ。英語のちょっとできる先生が来るんですけども、そういった面からすると、観光で、イギリスとはこんなところだぞというところを、1週間という期間で、空気に触れさせてくるのはいいんですけども、もっと力を付けさせるには国内というか、その学校で先生方の力を付けさせて、先生方もALTと話しをする。

それでも、ALTの質はどうですかと前に私が質問したときに、ALTは、やっぱり必要ですというふうに学校教育課長が言うんですね。

私も、そうならば、そのような、もう少し南相馬市の中で鍛えて、子どもたちを出していくということならいいかなと思いますが、行って力が付いてくるかという、果たしてどうかと思います。

今、大石委員が話された勉強の仕方もあるだろうし、色々外国人の方と触れさせるというかね、そういうもっと足元をしっかりと見つめていくというのも、私たちには大事なのかなと思うんですね。

子育てのところは、心豊かな家庭づくりという意味からすると、今の若いお母さん方には通じなくなってきた、同居するのも嫌だ、孫見てと言っても、孫のことを頼むのこともお互い遠慮して、子育ても大変だと言ってお声なども聞くので、そのためには、幼稚園・保育所の無料化というのは、非常にいいと思います。

先ほどの(3)オ「給付型奨学金の創設」もそのように進めていただけたら、若い人をこれから育てていくということが、南相馬市のまちづくりには、非常に力になっていくと思っております。

#### 高野委員

子育て環境整えたいということで、未就学児、小さいお子さんの保育に力を入れたいということで、私も自分が子育てしているときに、(1)イ「病児保育や一時保育の充実」とか、自分が休養できたけど子どもを預けるところがないということで、非常に困ったという経験があるので、こういうのを是非やっていただきたいと思うんです。

けれども、その反面、保育士が足りないという現状もあると思いますので、その保育士の育成ということで、それが(3)オ「給付型奨学金の創設」にも繋がってくるのかなと思いますが、長い目で見ると感じにはなるとは思うんですけど、保育士を育てるということも、力を入れていただけたらと思います。

#### 濱須委員

中学生の海外研修制度とか、できれば経験させてあげたいと思っておりますけれども、目的等をきちんと定めたあとは、財源確保など、継続しないと意味がないと思う。

最低でも10年程度は続けないと、効果は見られないという感じがどうしてもするので、継続性を図られるようなプランがあれば、是非、実現させることにはまったく異論はありません。

#### 市長

私も、中学生の修学旅行で英語という話をしてしまったので、子どもたちを出すには、保安の問題等で安全性が一番だと、あとは、出す前に日本の教育の良さをしっかり教えるのが大前提だと思っております。

おっしゃるとおり物見遊山ではもったいないですから、ここの良さを教えて、外の広い世界を見せたいなど。そのときに、やはり安全でなければならぬし、今、主流が英語圏かという思いもあって、そういう一流の場所というか、世界の主流になるようなところってというような想いがあります。

ただ、色々貴重なご意見賜りました。もし、やるにしても、なかなか時間がかかります。ですので、今のようなご意見をいただいたことを参考にしながら、是非、制度を詰めていくといいですか、実施に向けて、さらに問題点を探って行って、途中で皆さんにご報告、再度協議できるような時間もあると思いますので、そういうふうにして、一步一步、ステップアップできるかなというふうに思っております。

時間も来ましたので、先ほどいただきました、子どもたちに語学のことなど国内で力を付けさせるとか、物見遊山にならないようにしなければならない、まさにその通

りだろうと思います。

あとは、保育士を育てるようなことも大事だというようなこと、あるいは、幼児教育プログラムの導入では、遊びの中で、自然と勉強できるような、そういった取組もいいのではないかというようなご提案だと思います。

今のようなそれぞれの貴重なご意見賜りましたので、こんなことを、さらにまた教育委員会と私どものなかで、事務的にも詰めさせていただいて、できればというふうに思っております。よろしいでしょうか。そういう内容で。

それでは、3番目については、以上で終わりたいと思います。4番目、その他ですが、事務局からは何かありますか。

企画課長

事務局から、今後のスケジュールについてご案内させていただきます。

日時については、未定ですが、7月ごろと10月以降、あわせて2回ほど、総合教育会議をまた開催させていただきたいと思っておりますので、よろしく願います。

案件につきましては、その時期に来ましたら、正式にご連絡させていただきますので、ご承知のほど、よろしく願います。

市長

委員の皆さんから、何かございますでしょうか。

渡辺委員

幼稚園とか保育園等の先生方の職員のトイレの洋式化。まだ和式になっているというところがあるんですね。

それをまたチェックしていただいていると思いますけれども、先生方も怪我をしたときに、足を骨折した際に、トイレで大変不便を感じたという話を、入学式、卒業式で私たちが行ったときに聞きました。座るにもなかなか大変ですよ。

ですから、子どもたちの洋式化は進んできていますが、先生方、職員にも目を向けていただいて、お手洗いのところで気づいたところでしたので、是非、市長、その辺もよろしく願いたいと思います。

市長

調査をしながら、対応させていただきます。

それでは、その他は終わりにさせていただきます。事務局に進行を譲りたいと思います。よろしく願います。

事務局

長時間にわたりご協議いただきありがとうございました。

以上をもちまして、平成30年度第1回南相馬市総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。

午後4時50分 閉会